

高知県立療育福祉センターからの研修生を受け入れました

高知県立療育福祉センターの作業療法士二名が当院に一週間（2017/2/6～10）研修に来ました。今回も、ボバースアプローチ 8 週間講習会を修了した経験年数数十年の方々の研修だったので、実践的な内容が中心となりました。今回は作業療法士の方の研修だったので、PT 場面だけでなく同じ外来患者さんの OT 場面も見ていただきました。外来治療見学は、見学だけで終わらせずにその後時間を設け、臨床像やセラピーの目標、どういった考え方でアプローチし、どういった反応がみられたのでアプローチを修正していったのか等を整理したり、用いたハンドリングを練習するなどして、実践力を高めていきました。

【研修内容】

月曜日：オリエンテーション、病棟見学、概論講義、外来治療見学

火曜日：痙直型脳性麻痺児に関する講義、外来治療見学、クリニカルリーズニング、
外来治療場面で用いたハンドリング練習（実技）

水曜日：勉強会、アテトーゼ型脳性麻痺児に関する講義・ハンドリング（実技）、
外来治療見学、クリニカルリーズニング、ハンドリング練習（実技）

木曜日：外来治療見学、外来治療場面で用いたハンドリング練習（実技）、
病棟児治療見学、ケーススタディー

金曜日：外来治療見学、病棟児治療見学、クリニカルリーズニング、記録、まとめ

研修終了後にいただいたアンケートの一部紹介させていただきます。

- ・丁寧に説明をしていただきました。どういう点からアプローチしているのか、そのためにどこを評価しているのか、わかりやすかったです。
- ・説明しながらハンドリングして下さり、どこの筋に働きかけて反応を出そうとしているのかわかりやすかったです。また道具を使った解説もしていただき（手関節中間位で保持することで肩甲帯が安定するなど）臨床で使いたくなった。セッションの合間に受けたちよっとした説明がすごく参考になった。
- ・忘れていたこともあり、神経・解剖学など再学習の必要性を感じた。
- ・忘れてしまっていた部分の復習、新しい考えを含めた説明していただき、とてもわかりやすかったです。

- ・あとで症例が混乱してしまったことはあったが、様々なケースをみせて頂き、自分のケースと重ねてヒントをいくつももらった。・自習の時間も復習することができた。
- ・実際に身体で感じないとハンドリングが自分のものにならないところがあるので、欲を言えばハンドリングをもう少し習えれば嬉しかった。一週間があつという間でした。
- ・今担当させていただいている子どもさんに、似た感じの子供さんの見学もさせていただきました。その時に説明下さった点を、再度担当 PT と一緒に確認してアプローチを考えていきたいと思います。
- ・アライメントを整え、本人が BOS を感じ取れ正しい感覚を入力されること、ハンドリングの手が強いと筋を感じ取れないことなど、今まで学んできたことが実際につながりました。
- ・いろんなタイプの子供さんの見学をさせていただき勉強になりました。特に重度の子供さんには接する機会が少ないため、どのような点に注意すべきか知ることができました。
- ・実際に肩甲帯などの上肢に触らせてもらう機会があり、学んだハンドリングができたので、少し自分の技術として持って帰れそうです。
- ・お忙しい中、指導していただき、本当にありがとうございました。とても楽しく充実した一週間を過ごさせていただきました。
- ・また機会があればぜひ研修にも参加させていただきたいです。ありがとうございました。

当院が小児の包括的リハビリテーション・療育施設のモデルとして外部に発信していけるよう、今後もこういった研修生の受け入れを積極的に行っていきたいと考えています。